



本号の内容

- 1 「第5回融合フォーラム「2000in鹿沼」」の報告(全体会・分科会・講演の詳細記録・アンケート全文・反省会)
- 2 融合研総会より(役員人事・会計報告・会費の値上げ等)
- 3 「冬季フォーラム2002in富士宮」について
- 4 余裕教室等の活用に係る補助事業等について(文部科学省所管以外)
- 5 会員名簿(2001.7.31現在)の送付について;訂正のある方は、ご連絡ください
- 6 その他(福岡フォーラムの日程検討・会費納入のお願い)

「第5回融合フォーラム2001in鹿沼」は大盛会！

学社融合の先進地と言われる鹿沼市での開催であった今回のフォーラムは、内容的にも盛りだくさんであった上に、実践に基づいた質の高さもあり、大盛会のうちに終了することができました。とくに、石川小学校での音楽の学社融合授業の見学には、午前中の参観にも関わらず多くの参加と賞賛の声がありました。また、分科会討議を中心にした日程であったので、具体的な討議ができたことと仲間が増えたこととで、これも参加者からの好評を博しました。全員のアンケートを全文掲載しましたので、参加できなかった方も雰囲気を感じていただくことができますと思います。また、分科会や講演の詳しい記録も載せました。そのため今回の会報は、分量が多いのですが、どうぞ、隅々まで熟読してくださると幸いです。

全体テーマ 21世紀の学びをデザインする ～総合的な学習と学社融合～

日 時 2001年7月7日(土)10:30～7月8日(日)12:00

場 所 栃木県鹿沼市立石川小学校・栃木厚生年金休暇センター

第1日目 7月7日(土)

10:30 市立石川小学校の音楽の融合活動見学

13:30 全体会

・開会挨拶(宮崎会長・石川小学校長)

・基調提言「学社融合の全国的動向」(岸副会長)

論文発表(2本)+学校開放と安全管理について

15:00 分科会

17:30 屋台フォーラム(会員の自由発表)

18:30 交流会・全国名産市(21:00終了)

第2日目 7月8日(日) 8:30 融合研総会

9:00 分科会(すべての参加者が提言者～論じ合う分科会)

はじめての学社融合(コーディネータ;宮崎会長)

学校を地域施設化した学社融合のこれから(コーディネータ;岸副会長)

授業を学社共学の場とした学社融合のこれから(コーディネータ;越田融合プログラム開発委員長)

10:40 記念講演; 講師 文部科学省生涯学習政策局生涯学習政策審議官 寺脇 研 氏

11:50 閉会

全体会記録

分科会記録

第1日目・第1分科会(記録が未着につき「次号で」報告します)

第1日目・第2分科会 発表「石川小学校にみる学社融合」 会場; 霧降の間
事例発表者 石川小ボランティア
司会;野澤令照(融合研・監事)
記録;阿久津美春

【発表内容】 いざわさん(教職にあったとき、学社融合に携わった)

生涯学習等に関連した研究指定を受けた。教員の発想の転換が必要である。一人ひとりの教員がしたいことを挙げるようになった。いざわさんも音楽主任の立場から、思考を広げることにした。

- ・鑑賞指導に疑問を持ち「生演奏を聞かせたい」と考え地域に呼びかけた。委員会発足
- ・音楽に関心がある方に呼びかける活動に広がり、人材が集まってきた。無償

(退職)地域の一員として活動する立場に変わり、この活動は6年目を迎えた。

地域全体で音楽活動を支えていこうとする意欲をもって取り組んでいる。

- ・ベースとして市民ボランティアのカーブがあり、ボランティアが活動的であったところに学校側の要請があり、進めることができた活動であるといえる。
- ・始めは鑑賞態度が悪かったが、次第に良くなり、聴く聴かないの選択も子どもがするようになった。
- ・ボランティアの方とも気軽に話せるようになり、いろいろな触れ合いが生まれるようになった。
- ・教師の教材研究の負担が軽減された。(学年で学年部で授業をおこなう)
- ・他校では全校音楽の時間をとり、ボランティアと一緒にミニコンサートを取り入れる授業を行っている。はじめは教員の方が受け入れに難色を示したが、ミニコンサートを見て実施に踏み切った。

(実際の楽器演奏の体験を写真で説明)

- ・オーボエ;盆踊りコンサートとして
- ・琴
- ・チェロ
- ・合唱;中学校の吹奏楽と
- ・尺八
- フルート
- 文化サークルとコンタクトをとって話を進めた
- ・声楽
- ・クラリネット
- ・アンサンブル
- ・警察の音楽隊(交通安全のメリット)
- ・郷土芸能
- ・民謡
- ・舞踊
- ・アジアの音楽(国際交流協会);胡弓
- ・演奏を聴く 楽器によっては演奏体験
- 子どもをひきつける内容を考えてくれる(ex.アニメ)
- きちんとした打ち合わせはできないが、タイムテーブルをファックスしてきてくれる。(来る人も工夫してくれる)
- ・ボランティアが準備,学校側が手配,校長名で依頼。

【質疑応答・感想・意見】

Q1. 通常の授業は? 音楽中心だが、他教科の実践は?

- A. 国語でも毛筆の書写, 生活科, 社会, 図工, 家庭科など。国際理解推進委員会やすこやか委員会がある。
- Q2. 教師が授業を開くのに抵抗があるが, 一緒に授業作りをするときの苦労は?
- A. 年間指導計画に入っていなかったが, 平成11年度に取り入れた。担任に, どれをしたいか洗い出してもらい, それを推進委員会にかけ, できるかできないかを検討し学校へ提出。
中心は担任の指導内容のねらいを中心にした。どちらもできることできないことをハッキリ言う。
- Q3. ボランティアのしごととは, 人材を集めてミニコンサートを仕切るというのでいいのですか。何円も続いてくると支援者を通さなくてもいいのではないかと。また, 存在価値は?
- A. 生涯学習の研修に参加したり, 授業の反省などを話し合い向上を目指している。本人の生涯学習として。
- Q4. 学社融合が地域に影響を与えていると思うのだが, 子どもや講師などは, 地域でどうですか。講師側のメリットはなんですか?
- A. 子どもたちの喜び = 自分たちの喜びというのがメリットではないでしょうか?
- Q5. 学校の教師の立場からとしては, 講師を呼んでの授業と自分一人で組む授業とではどちらがラクですか?
- A. どちらかというところ、自分ひとりの方がラクだが、子どものつまらなそうな表情からむなしさを感じるだろう。担任の先生は不安そうだったが、その不安を取り除くのも仕事。学校のスリム化につながっている。お任せする面があり、いいのではないかと。
- 感想 ; 人材活用に大変なことは人集めではないかと思う。学校の方がメリットが多すぎると思うが、融合を考えたらボランティアの立場からはどう思うだろう。
参観して、ミニコンサートで終りかと思ったが、その後の授業を見て感動した。子どもたちはほとんど全員が集中している姿をみてすばらしかった。五感を働かせていた。自分をはじめて生演奏を聞いたときの感動を思い出した。指導案に「～させる。」という表現が使っているがやめてほしい。
学校で地域の人との合唱を行っている。お礼に手紙のやりとりなどもしている。

ホッソで話すことにより、メリットを明確にしていくことが大切なので、明日の分科会でも深く討議してほしい。

第1日目・第3分科会「学社融合ですすめる国際理解教育」

鹿沼市国際理解教育支援ボランティアネットワーク 提言者 山本和子 様

司会; 車育子 記録; 野澤桂子

< グローバルグループについて >

- ・国際交流の歴史 鹿沼に住む外国人が困らないようにと集まった5人から始まった
- ・国際交流の活動 鹿沼の外国人向けの地図(手作り)

手作りパーティ 異文化のまなび

鹿沼の紹介(まつり、日光へ)

ニュースレター 教えているつもりが逆に学ぶことが多かった

外国人のための文化講座

場所を学校へ 学社融合の始まり

石川小から要請があった

1年目 1～6年生 国語の教科書を読み、どこに国際理解教育が入るかをピックアップした

2年目 5～6年・家庭科、1～2年・生活科、1～6年・音楽・道徳・体育(ダンス)

家庭学級、PTAの講座

特技を持っている人をつなぐのが仕事

- ・ 他校からも希望が増えてきた 各小学校にボランティアをおいてもらって運営を手伝ってもらえるかと働きかけ、広げていった

公開研究(人権教育) 人種差別の実態に驚き、活動の重要性を認識した

インターネット、メールによる広がりを実感

15校目に広がっている。31校全てに広げていくことを目指す。

石川小 第1号・6年前 グローバルに相談

中国、モンゴルなど16以上の国の人々が来校 民族衣装、料理 など

・問題点 その場限りになりがちである。

講師料などの活動資金を集めるのが苦労。

ボランティアであるがゆえの苦しみ(人が少ない)

・成果 自分が楽しいと感じたから長く続いた。さらに、広めていきたい。

少人数でも設定できるようPTAや地域との協力ができた。

インターネットで知り合った人もおり、長く続けたい。

北犬飼中

保護者と共に給食を食べる

・もっと、参加者を増やしていきたい。

菊沢東小 3年前・種々の実践

人権教育(外国人への偏見) グローバルに依頼

・ボランティア情報、ボランティアだよりの発行

撮影、駐車場などのお手伝いの保護者 大盛況 楽しかったと言われるのが励み

パソコンボランティア 都合のつく保護者一人でも二人でも

国際理解教育ボランティア 人数が少ないため合併

ボランティア 忙しすぎて無理がきているのが課題。ただ子どもたちの感謝で疲れもとぶ。

東小 グローバルグループの中の保護者

外国籍の児童・保護者(スウェーデン) 孤立させないための活動

・PTAと共催の料理教室、環境問題を考える

・学校から協力依頼、子ども達は言葉の壁は心配ない。

・交流を続けたい。大変だったが喜んでもらえて嬉しかった。

北小 1年半前 3人から

地域が教育支援をおこなう「北クラブ」のひとつ

・子どもたちと保護者の両方に情報提供、企画運営を行う(料理教室等)

・教育について語り合える、料理プラス があってよかった。

・文通が始まり、翻訳のお手伝いをしているが、アメリカでも日本の学習を開始。

・ボランティア自信の勉強にもなっている。

西中

書道のボランティアとして活動

・教科ごとに教師が変わる中学校での難しさ。通常の授業の中に活動の場を見つける

難しさがある。しかし、実現できた喜び。

北押原小

中国人の子どもに日本を教える活動

・二人で3ヶ月行ったが、講師がいて質問にすぐ答えられる良さ

・国際理解ボランティアの掲示板をつくり、募集にも貢献。一緒に活動し感動したい。

津田小

親子レクリエーションでの取り組み

・その国独特の遊びを取り入れてやったが、もっとたくさんやりたいという感想が多い。

池の森

一日世界一周旅行を実施。スタンプラリー形式で各国の遊びや歌を体験した。

開発教育協議会 中村 様

「つながれ開発教育」という本 国際理解教育に経済など現実的な垢抜けた教育(NGO)

パートナーシップを地域の中でさらに広げれば、相互に有効

・学校(先生が) 地域へ

・地域(国際交流協会) 学校へ

・地域作り、福祉、人権、文化をつくる ネットワーク作り

子どもたちが体験して共感するリアリティが大切

第1日目・第4分科会

第1日目・第5分科会

発表1「板荷ふるさとオペレッタ2000はこうしてつくられた」

手づくりにこだわったオペレッタ2000

事例発表者 酒井 直江・福田 冷子・堀川 佳子

司会 庄子 平弥(融合研・副会長)

会場 古峰の間 : 参加者 31名

事例発表者の自己紹介の後、VTR を上映しながら酒井さんから各項目について説明が加えられた。

手づくり その1 劇のテーマ「夏の発表だから、戦争のことをやろう」～子どもたちからの提案

手づくり その2 台本をつくる資料が何もない～子どもたちが近所のお年寄りに聞き取り調査
・中学生が中心に運営。

手づくり その3 台本づくり～グループごとに、ひと場面ずつ台本をつくってゆく

手づくり その4 動作づくり～グループごとに自分たちで考えた台本に基づいた寸劇をつくる
最もよくできたグループの寸劇を本番用を選ぶ

手づくり その5 歌づくり～子どもたちの作詞・作曲

手づくり その6 大道具・小道具～お父さん・お母さんをはじめとして家族みんなが参加してつくる
その他地域の皆さんも参加して手づくり
・トウモロコシやススキなどセットはできるだけ本物を使用

手づくり その7 演技・衣装～おじいちゃん、おばあちゃんが練習に参加して指導

手づくり その8 照明・黒子～お母さんたちが奮闘

手づくり その9 当日の会場係～お父さん、高校生・中学生が駐車場、受付などに参加

手づくり その10 発表を地域の皆さんで支援～500人もの人々が声援・支援

出演者 28名。スタッフ 30名。ボランティア 20名。

子どもの声「地域の人と関わりが深くなってよかった。」

地域の人声「子どもたちに声をかけやすくなった。」

福田先生の感想「だれかが認めてあげれば、子どもはやる気を起こす。子どもは与えられればできる。」「またオペレッタを開きたいという気持ちは子どもの純粋な気持ちが大きく影響している。その心が地域の人々に通じる」「子どもたちにはやる気がある。そのやる気がいつまで持続できるかが課題。」

続いて 発表2、発表3 について、資料による説明があった。

発表2 地域と学校で支え、育む中学生の社会参加活動

荷コミュニティカレッジ選択家庭科

発表3 コミュニティカレッジの講座が授業になった

心を育てる読書の街づくりをめざして、市民自らが生み出した KLV 活動は、1992年 3 月に誕生、10 年の歩みについて概要の説明があった。

学校の施設開放を生かしてつくられた住民大学の趣旨、現況、授業で使われない時間は、シャッターで仕切られ、教育委員会・公民館が管理責任を持つ制度・仕組みについて概要の説明があった。

続いて、福田さんから学区内に住む一人の教員(鹿沼市内の他校の教員)が、作詞・作曲と歌唱指導に携わった経緯と子供たちが作曲した譜面のパソコンによる編曲指導した流れと感想を披露した。

最後に、堀川さんから KLV 活動の地域ボランティア活動を通じて、オペレッタ活動を支援し支えて来た経緯と感想を披露された。

発表説明に続いて、参加者との一問一答形式による論議が行なわれた。

その1について

板荷(「いたが」と読む)地区とはどんな地区か

人口 2,000名、農山村である。小中学校が各1校、各校・学年ともに 1 クラスの小規模学校である。シャッターで仕切られた開放施設は中学校が新築された6年前に新設された鹿沼市内はそのような施設が他にもつくられているのか

板荷中学校だけである。現在新築中の中学校には、同様の施設がつくられると聞いている。

人口 2,000 の地区から 500 人も参加者を集めることは大変なことである。どのようにして参加者を集めるのか

地域の公民館だよりで募集をかける。上演協力金は、高校生以上 500 円である。

台本づくりの段階から住民総参加型であり、関心が高い。

台本づくり等全て子供たちの自主的な制作で行なわれているのか

「全て手づくり」であり、子どもたちの着想で、想いを強く持ち、聞き取り調査から始めた。

場面場面でのセリフも子供たち同志で考え、ことばも動きも自分で考える。あらかじめつくられた台本はない。衣装も持ち寄り、現実に聞いた話を再現する。

召集令状を持ってきた役の中学生は「この衣装に重みを感じる」と語っていた。

鹿沼では、実際に空襲警報でトウモロコシ畑や麻畑に逃げ込んだので、オペレッタではトウモロコシの現物を舞台に運び込んで再現した。

オペレッタの中で歌われた作詞・作曲は、誰が担当したのか

全て子供たちが聞き取ったお年寄りの当時の話に感動しながら、そのイメージをもとに作詞し、作曲して歌いだしたものであり、心の中の想いを表現した。作曲は譜面をパソコンで採譜してつくった。

台本づくりは、どのように組み立てられたのか

子供たちは体験がないので、イメージだけであり、地域のおじいちゃん・おばあちゃんの指導を受け、グループごとに台本をつくり寸劇し合い、各グループの良いところをつなぎ合わせて表現した。

あらかじめ誰かが作った台本を押し付けて演技させた部分は全くない。

このオペレッタを通じて、関係した人々は何を学び取ったか

戦争劇を通じて平和の尊さを肌で感じ、平和を誓った。

郷土愛・地域を愛する心の芽生え、地域の人々と子供たちの一体感が醸成された。

一人ひとりが全員主役であり、助け合いによってつくられる過程の大切さを知った。

出席者からの発言・質問

市川市のナーチャリングコミュニティ「子ども劇場」は1年で終わった。

演技者の年齢差あり、時間が合わない。子どもが塾通い等で忙しい。

子供たちの「やりたい」気持ちの持続性が困難である。

板荷が3年続く秘訣を聞きたい。

答弁...

、創作・リハーサルは、5月～8月の短期で仕上げる。

、先生・地域・保護者・行政の大人との合作、きちんとした「あいさつ」をして始める。

、子供たちに演技を押し付けることが無い。子供たちが主役であり、その考え方が台本に全て反映する。

、練習日には、楽しいので休まない。休む時は親が代役で練習する。

、自由に練習できる施設が身近にある。

、現場中学校の教師、学区内に居住する教師等進んで協力する。

、地域でのお祭りや行事が多く、地域の一体感がある。

秋津での事例として幕張で1回行なったが、台本に参加者の意向を入れるようには初めからなっていなかった。

中心になる人のイメージで台本は作成された。結果として、その後の発表依頼に誰も乗って来なかった。板荷での成功の秘訣が分かった。演技を子供たちに押し付けられないことが素晴らしいと感じた。

【回答】

、子どもの演技を誉める。伸ばす。認める。素直な心を表現させる。

、周りの子どもも「認める」失敗を責めない。アドバイスを与える。

誉めて、ほめて、また誉める。このことで、持っている力以上のものが出せる。

そして、最後の感動が、また子どもを動かす。

喜び、涙、苦労が全て皆で分かち合う 一体感が生まれる。

【総括】

大人 認める。誉める。 子ども 自分を認めて欲しい。

教員として自分の勤めている学校だけでなく、地域でもできることに参画する必要性を感じた。

その2について

- ・本の貸し出しや読み聞かせ、紙芝居、
- ・中学生が読み聞かせや図書館活動(KLV・jr)
K;カヌマ L;ライブラリィ V;ボランティア
- ・発表の場を与える。子どもと大人の共通の話題が持てる。地域でも声掛けが出来る。

【出席者からの総括意見】

施設に恵まれる。恵まれない云々は関係無い。一步踏み出すことの大切さを教えられた。

終了時刻 17:20 時間切れで、その3については触れることが出来なかった。

【司会者からの総括意見】

板荷ふるさとオペレッタ2000の事例は、あらゆる面から考えても、まさに学社融合の先進的実験事例であり、融合教育の生み出すエネルギーの素晴らしさを十分に示している。

融合教育と総合的学習時間の複合的活用についてあらゆる実践活動を期待したい。

第 2 日 目

分科会 「はじめての学社融合」

2001年7月8日(日) 午前9時～10時30分 古峰の間

事例発表者(発表順)	金子 禎 人 氏 (新潟県川場村立中保倉小学校教諭)
	高 井 千 幸 氏 (静岡県引佐町立井伊谷小学校支援ボランティア)
	江 口 勝 善 氏 (千葉県鎌ヶ谷市立初富小学校長)
	竹 内 久 子 氏 (仙台市泉市民センター社会教育主事)
	和 泉 裕 一 氏 (新潟県青海町立市振小学校PTA前会長)
	中 川 洋 太 氏 (神奈川県厚木市教育委員会社会教育主事)
司 会	宮 崎 稔 氏 (学校と地域の融合教育研究会長)

事例1は、新潟県の金子氏より、勤務校である小学校(児童数45人)の運動会において、地域の参加者と児童と一緒に参加できる種目として「Yosakoiソーラン」を取り入れ、学校・PTA・地域社会が融合した実践例が発表された。今後どのように継続するかが課題であると結んだ。

事例2として、静岡県の高井氏より、ご自身の子どもの不登校をきっかけに始まった、学校支援ボランティアを、周囲との摩擦を乗り越え、理解を得ながら学社融合を実践し、行政を巻き込んだ活動へ発展、町全体の「子育てフォーラム」を開催するまでの例が紹介された。

事例3として、千葉県の江口氏より、大阪市池田の事件を契機に、学校を閉ざすのではなく、開放を継続し、地域全体で子どもの安全を守る事例と、地域の協力を得た畑づくりの実践例等が学校経営の立場から発表された。いずれの場合も、学校の情報を公開し、家庭・地域との信頼関係を築くことが重要であると述べた。

ここで、ワンクッションを置く意味で、宮崎会長より、「融合と連携の違い」と「狭義・広義の学社融合」について解説があった。

これは、一日目の岸副会長の提言を踏まえて、具体例に基づいて説明されたものである。

連携と融合の違いでは、事業の企画主体・責任の所在・メリットについて説明があった。また、狭義と講義の学社融合では、鹿沼では学校教育と社会教育の融合という視点から行われていて、これを便宜上狭義しており、習志野の秋津では、学校という場で地域社会の生活全般と融合している状態があり、これを広義ととらえているとのことであった。これは、分け方の問題であって、どちらが上位概念であるとかの問題ではないということであった。

事例4として、仙台市の竹内氏より、スクールパートナー・ジョイント事業が紹介された。嘱託社会教育主事(現

役教諭を社会教育主事として嘱託する仙台市の制度)が学校を離れ、市民センター(公民館)と一緒に児童の学校外活動の企画運営をした。この事業では、学校教育に社会教育の手法を取り入れるよい機会となり、地域を知ることができた、また、地域も学校を知ることができた。今後は、学校・地域・ボランティアをどのように結ぶかが課題であると述べた。

事例5として、新潟県の和泉氏より、PTA が中心となり、公民館と企画運営したサマーキャンプや町の助成を受けた漁港壁画づくりの例を紹介し、PTAが学校のお手伝いの役割から脱却し、主体的に活動するためには、会員が楽しみながら参加できるよう、会員の意見を集約し、改善を図ることが今後の課題であると述べた。

事例6は、厚木市の中川氏より、小中学校・公民館・地域社会が一体となった、「ふれあい遊歩道」整備事業をとした学社融合事例が発表された。「できないことはできない」といえる組織づくりや、継続性のある事業計画を作るよう配慮したことが発表された。

事例発表後、質疑応答がおこなわれ、質問の中で、「学社融合とまちづくりはどのように結びつくのか」の問いに対し、学社融合をとおして、場所づくり、人づくり、仲間づくりをすることがまちづくりにつながるのではないかとひととの出会いと共有体験が、関わりを深め、つぎのステップへ進んで行く、この繰り返しがかまちづくりにつながるのではないかと、子どもを中心に据えた活動がかまちづくりにつながり、それが学社融合なのではないかななどの意見が発表された。

最後に司会を務めた宮崎会長が、「学校は開かれてきているが、そのことを知らない地域住民も多い、もっと地域に発信する事により、子どもを中核としたまちづくりに発展する学社融合ができるのではないかと結び、分科会を終了した。

分科会 「学校を地域施設化した学社融合のこれから」

分科会 「」未着

2001年7月8日(日)

「融合フォーラム2001 in 鹿沼」記念講演

【テーマ】21世紀の学びをデザインする

【講師】 寺脇 研 文部科学省生涯学習政策局生涯学習政策審議官

この十年間日本はよくなってきている。例えば女性、障害を持った方、若者、子どもたちにとって。

若者にとって言えば十年前、偏差値が大手をふっていた。受験競争の加熱の中にあった。現在は家庭科男女必修化がされた。総合的学習の時間もはじまる。

勿論凶悪な事件が起きるなど、問題はあつる。しかし、確実によい方に変化している。地域や家庭もそうである。

例えば完全学校週五日制。近づくといろいろな声もおこってくる。しかし、たった一日土曜日が休みになったとき、学校五日制がはじまったときの議論を思い出す。土曜日でも子どもの面倒を見てほしいという、いくら何でもあつるような低次元の批判はおこらないだろう。それだけ意識がかわつてきている。

池田小学校の話をつきかけにいろいろな議論があつる。しかし、本当に子どもたちを「安全」にしようとするれば、高い山のなか、高い塀の中に隔離せねばならなくなる。本当に「安全」にするために、でもそうすることでどんな人間ができるか。全クリスクのないやり方がよいのか。

この十年の日本はとつてもよくなつてきている。悪くなつたと思うひとがなにかと文句をいう。それは官の世界に属している人。経営者は経営責任があつる。悪しき意味の官と悪い経営者は一致している。

例えばゆとり教育批判、学社融合批判する人の肩書きを見てみると、全員男性。女性はひとりもいない。そして、全員大学教授とか現あるいは元官僚。国立大学の先生とか。

学社融合論の考え方というのは、本当に大きな世の中の流れにそつていている。

画期的な催しがあつた。初めて全国の都道府県政令都市の社会教育主事の研修を全員参加で文部科学省主催でやつた。過去五十年やらなかつたことは問題。でもやつたことはとつかりになつた。一泊二日でやつたが、

夜の交流会のとき、車座になる人とならない人がいる。学社融合で「学の方が偉い」と勘違いしてる人もいる。しかし、それは時代遅れなんだ。三分の二はそう思っている。しかしあとの三分の一の人たちは取り残されている。

民間支援教育団体の吉田さんの話を全国の社会教育主事にきいてもらった。民の側の話を官の都道府県社会教育主事がきく。更に私が追い打ちをかける話もする。みなさん方はその社会教育主事さんよりきっと、私の話を理解されるだろう。

みなさんのやっていることは脱官。小泉さんだけができてこうなったわけではない。たとえば、NTT や JR。むかしは官だった。ストライキをやると、私たちは歩いて職場にいかねばならない。これは官が官に対して争っている。日教組対文部省でも両方官。官どうしの争いはわかるが、民にめいわくをかけるな。ということ。JR も NTT もストライキがなくなったのは、民がゆるさなくなったから。脱官の流れが今につながってきている。

実は本当はない官というものに、官というものがあると錯覚していただけなのだ。そしてその錯覚が持ち越されてきた。これは戦後の民主主義が外からもたらされたことに立脚する。だが8割の国民はその後の教育を受けている。

脱官。官民から民官へ。主権在民だから民が上。吉田さんは公(こう)と民と言われる。官という言葉すらいらぬ。公(こう)と民。

お役人は官でなく、おおやけのことをやる職業にすぎない。私も勤務時間以外は民。そうすると、役人も民。二十四時間おおやけのことをやっている人はいない。それなのに無条件にありがたがることは変。

ただ民の中におおやけのことなんて絶対やりたくない、と言う人がいたら問題。しかし今そういう人は減ってきている。それは本当に自分のことしか考えない。そういう人。でも考えると、お隣の人のことを考えていてもそれはおおやけのことになる。それを一切やらないというのはあり得ない。自律(立)二乗。小泉。ただ自分たちのことはやる。と言うだけでやってきてそういう結果社会に莫大な借金がのこった。

NPO は、民がやる最たるもの。文京区の例。子どもたちの居場所がない。特に四年生以上の子ども。放課後児童クラブみたいに居場所を作れないか。そこで役所できいた。やるとするとこれだけかかる区役所が提示した額。官がやると目の玉の飛び出るほどの金額。しかも文京区の区民税は文京区の公務員の給料でなくなってしまう。それだったら、自分たちでやろうと考えた。親もリスク。NPO、役所も補助金を出す。ここに、新しい公共サービスの成立がある。今までだったら役所に頼むだけで水掛け論になっていた。官に頼むという考えをやめ、どうやってパブリックを形成していくかということ。

今度の学校の改革。学校という官のあり方が変わっていく。教師と言う公務員、官僚。そのあり方を考える。外務省の場合も同じ。民意の反映—地域住民の。学校が民意を聞くシステムを作る一例—学校評議会、等。

教師という公務員のありよう。五年間で七千人ふやす。フルタイムの教師しかいない学校をなくす。これからはフルタイムの教師、パートタイムの公務員の教師の導入、一産休の非常勤講師ではない—常にいる。そして先生じゃない人たち—公務員じゃない人たちが入ってくる。謝金をうける、受けない人。四者の人の比重をどうするか、各学校でどう使うのか。親、地域住民の意見をきき、地域が学校の意志決定権をもつ。形式的には校長、教育委員会が。

国民の民意にそって総合的な学習ができた。役人はコックみたいなもの。民がこういう料理をつくれというで作る。前は民意が今とちがった。受験競争に勝ち残る子どもを作ってほしいという民意があった。そこで、偏差値と言う化学調味料をつかった。注文は複雑になっている。「子どもをのびのび、そして学力つけてくれ。」そしてやっているのが今の教育改革。のびのびと学力、私たちはこれを矛盾するとはとらえない。しかし、どっちをとるかといわれたら、子どもをのびのび。

全国の私立幼稚園の親二万五千人に二ヶ月前調査をした。どんな子どもになってほしいか、選択肢から三つ選ぶ。八十パーセントの親が人と仲良く、友達たくさんとにチェック、これが一位。第二位は六十六パーセント、社会で役に立てる人になってほしい。勉強ができるが三位かと思っただ、これは四パーセントしかいない。

さっきののびのびと学力を矛盾させないためには、学校を卒業した後も勉強する子どもをつくること。

アメリカに公の概念について知る学習システムがある。例えば町の中のいろんな役割を子どもが果たす、市長、公務員、とか。コンビニは金儲けしていることは確かだが、決しておおやけの役割をはたしていないわけではない。特に今などは振り込みもできるし…。今までの勘違いがわかる。

そこでそのシステムそのものは非常に大がかりでやれないので、てっとり早く株式会社をやってみる実践を中学校でやった。公の概念を知るために意味がある。しかし、これにはその意味を理解しない人から批判もある。それで、私は最後の株主総会の授業をみた。携帯のストラップづくりという事業。金がないので一株100円の株券を売って資金を得る。これは実は高校大学向けのカリキュラムだが、やったのは中学生。株主は納税者と同じ。何をやるにも、そのお金はどこからくると考えることが大事。株主になると、お金の出所がわかる。同じことを当

てはめると税金。そしてそれを使う責任。そして説明責任。

さて、決算してガラス張りにすると、450円の使途不明金が出た。役員一同、財務担当副社長の女の子は平謝り。原因がわかりません。領収書のもらい忘れ。等。株主一人に四円五十銭の損をさせたと肩をふるわせて誤る。さて外務省は奇しくも四億五千万円。外務省は誤らないから問題がある。だが中学生はそれがわかる。

細かい知識は後でもつけられる。しかし、マインドはこういう学習で。

パブリックということ。学校の先生にもそれができる人はいる。勤務時間以外に何かできることをやる。例えば、私を書いたのではないが、もうすぐ本をだす。いじめにあって不登校から立ち直る人の手記。そこに一言、それくらいだったら私もできると、書かせてもらう。

みんなが何か関わる。

教師だって、変わってみるとあなたがハッピー。やるのはたいへんだけど。

私だって十年前は官しかいない人間だった。今の方がハッピー。

最近感動した話。寺子屋が何か所あったかを研究している人の話をきいた。幕末に十万あった。人口が二千万人から三千万人の時代。勿論規模は小さく就学率が低い。でも十万ものコミュニティで、どこから補助金が出るわけでもないのに、読み書きを教えようと、先生も集めて…それだけコミュニティがあった。今は二万四千の学校。明治のはじめも金を自分で集めて学校をつかった。学校はコミュニティのもの。

最近一番変だと思うのは、校長の写真が校長室に掲げられていること。そういうこと一つから誰が意志決定するか。誰のための学校か考えてみる。

放課後や土日は社の方(地域社会)が受け持つ。そこから始めると始めやすい。そして子どもに好かれた者が勝ち。自ら考え、自ら学ぶ力を試さない学校は子どもが受験しなくなる。

来年に向けてこの夏休みがトライアル。一つのきっかけ。そこをみなさまにお願いしたい。

「融合フォーラム2001 in 鹿沼」の感想

コメントは、文責;宮崎稔会長

数字は、記入人数

回収;34名

1 あなたは、このフォーラムについて何で知りましたか。

(10)会報

(1)新聞や雑誌の案内(それは、)

(22)その他(「会員に紹介されて」が多かった。)

コメント;会員以外の参加が増えてきた。個人的に誘うのが参加者を増やす道と言えそうである。

2 このフォーラムは、何がよかったですか。(いくつでも)

(15)論文発表・危機管理

(26)分科会「鹿沼づくし」

(11)会員発表「屋台」

(23)夜の懇親会

(25)2日目の分科会;第1分科会(12) 第2分科会(3) 第3分科会(6) 無記入(4)

(21)講演

コメント;参加者全員が、全日程に参加したわけではないので一概に比較できないが、漏れなく評価されている。とくに地元の鹿沼の実践は高く評価されている。また、参加者の約半数が宿泊しただけであったが、懇親会に多くの評価があったのは、内容もさることながら交流によって知り合いができたことによるのが大ではないか。2日目の分科会は結果が割れたが、関心の度合いと内容との相関がはっきりしない。参加者が、事前にどの程度の内容になるかがつかめないことにも困りそうである。寺脇さんの講演は、今年も多くの参加者に感銘と勇気を与えた。今後も、継続して講師をお願いしても良いのではないかと思う。屋台は、発表場所と方法がはっきりしなかったこともあって、発表者・会員ともに迷惑をかけてしまったが、参加した人には突っ込んだやりとりができたので概ね好評であった。論文発表・危機管理は、参加者からの質疑を設けなかったことが、不満としてくすぶっていた人が少なくなかった。聞きっぱなしではなくやりとりできることに、参加の意義を感じている人が多い。時間のやりくりをどうするかが今後の課題であろう。

3 このフォーラムに対するご意見・ご希望

・いろいろな実践を聞くことができてよかった。

- ・それぞれの方が前向きな取り組みをされている様子が分かりました。融合の難しさも感じますが、できたときの感動は素晴らしいものだろうと思われた。
- ・初めて参加しました。同じ思いの人たちと出会えて良かった。また悩みを聞いてもらえてよかった。このようなフォーラムは大変良いと思った。
- ・初めて参加させていただきましたが、情報量が多く中身の濃い大会で大変勉強になりました。この大会で人とのつながりができて、自分の関心領域を広げることができそうです。
- ・私たちと同じ思いや学社融合を目指して日々がんばっている方が全国にもこんなにいるんだと知り、本当に心強く、これからの私たちの活動のエネルギー源になるだろうと確信しました。私たちのような「しろうと」でもこのような前向きなフォーラムに参加できて幸せだと思いました。
- ・手作りのフォーラム、みんなが参加しているフォーラムという感じがよく出ている。
- ・すごい勢いに圧倒されっぱなしでした。右も左もわからないまま、友人の誘いにフラフラ付いてきたので「大丈夫かなあ。」と不安でしたが、気さくで明るい雰囲気になんてよかった！また来たい！と思いました。
- ・まだ全然勉強不足でわからないことばかりでしたが、今回のフォーラムを通してますます興味が沸き、これからも意欲的に勉強していきたいと思えます。
- ・参加して大変よかったです。今後この会が発展することと私も会員となって社会の一員として自分づくりをしていきたいです。
- ・初めて参加させていただき、世の中がこれほど進んでいるのか、と目を丸くしました。自分も子どもたちのため、できることを一步一步やっていきたいと思えます。
- ・今、充電中の我が町ですので、大変勉強になりました。
- ・発表された方、集う方々のパワーに圧倒されました。できれば分科会の内容を事前に詳しく知って思いっきり迷いたかったかなあと思いました。
- ・分科会がどれも面白そうで詳しいレビューが欲しい。
- ・地域からの学社融合について参考になる事例や話が聞けた。
- ・興味深い報告が多くあり、個人的にはキーワードは「楽しさ」であることを再確認しました。一方、学校と地域の結びつきを考えていく場合、教科の授業というものも視野に入ってくるべきではないかと思いました。
- ・論文発表の思いは、文にしてありますので、多くの人に読んでいただければ幸いです。(発表者より)
- ・僕の学校は、「地域と共に地域にひらかれた学校づくり」としているんな方々が、学校教育に関わっている学校だと思うのですが、学校主導でいろいろなことをしてきたせいか、学社融合という視点がありません。その学校としての課題とこれからの方向性がはっきりしました。めっちゃスツキリ。きもちいいです。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・分科会に於いて、発表者の方が貴重なレジュメを提示してくださいましたが、必要なレジュメを見つけるのに時間がかかりました。レジュメに分科会名を明記していただければと思います。
- ・初めての参加でしたが、石川小の見学をはじめ、たくさんの交流会で学ばせていただくことがたくさんありました。たくさんの事例も聴けましたが、発表をしぼって一つのことに深く意見を出し合う場面もあってよかったかなあと思いました。
- ・論文発表は内容は素晴らしいと思いましたが、会員発表「屋台」のような感じで、わざわざ時間をとるのももったいないような気がしました。遠方の方も多いので、寺脇さんの講演以外は、なるべく選択でき必要な情報を持ち帰りたいかと思いました。また、少人数で語る時間を是非設けていただきたい。
- ・とにかく素晴らしい。この動きはもっともっと広がる。広げたいと思えます。また多くの人に知られるよう取り組んでいただけたらありがたい。教員の研修会・校長会等で融合研の話の機会があると効果的だと思います。
- ・初めての参加だったので、期待半分といったところでしたが、みなさんがミッションとパッションを共有されておられ、活動されているのがよくわかりましたので、これから取り組もうとしていることの参考に、また地域での議論の資料に活用させていただきます。
- ・いろいろな方との出会いができ、たいへん勉強になりました。実践を通した課題は参考になりました。
- ・いい大会でした。
- ・石川小学校の実践と子どもたちの反応がよかった。次回もできることならレポート類だけでなく、融合の具体的な実践事例(学校関係でもいいし、地域的なことでもよい)を是非見たい。
- ・とてもよかったという印象です。盛りだくさんの中身を上手に時間配分・工夫されていて感心してしまいました。
- ・新しい研究会で主催者の勢いが感じられました。窓口が広く、この先はどのようにまとまっていくのが楽しみです。国の方向性はまちがいがなくこの方向なので先を走る者として自信を持って進めていただきたいと思えます。
- ・多くの事例を学べることができたことが何よりだった。様々な分野からの参加者との交流を通じて、たくさんの刺激を得ることができ、ヒントをいただいた。参加してとても良かった。
- ・素晴らしい教育思想にふれ、自分たちの活動にも自信を持ち、今後の発展・展望計画も見通せた。
- ・もっと早く事前に知れたかった。2日前の夜に知ったので、一日目に参加できず残念。
- ・資料が多くありがたいのですが、通し番号を付けて、フォーラムですぐに出しやすいようにできないか。
- ・今までの整理できないでいたことが多く解明され、明日からの行動に移せます。大変よかったです。

コメント:たくさんの方が、このフォーラムを評価してくださいました。とてもありがたいことである。実践者の努力により内容のある実践事例を提供していただいたこと、またどんなことでも腹藏なく語り合えたこと、参加者に喜んでいただけたのではないかと。主催者としてうれしく思うと同時に、今後へ向けて責任の重さも痛感している。アンダーラインのところは、今後へ向けて是非考えなければならないことである。とくに資料を探すことで参加者に手間をとらせてしまったことは、是非早急に解決したいことである。貴重なご意見をありが

とうございました。

4 学校と地域の融合教育研究会に対して

(2) 関心がない

(30) 関心がある

関心がないと記入した2名も、記入場所を間違えた感じがする(好意的なコメントを書いている)。

関心があるから参加したのであろうし、あまりよい設問ではなかったと思う。

- ・教師の意識改革の必要性を改めて感じた。教師が自分の殻から出ない限り教育が変わらないと思っているが、どうやってそれを行うか。地域人材を組織化して協力しあうのがよいか。
- ・今まで出席したことがない会なので、すべてに関心がある。
- ・学社融合を広めていこうという心意気。
- ・行政上の学社融合の実践に関心があります。先進的な事例の情報をいただきたい。
- ・学校と地域が「なかよく」融合していくための情報や方法を知るために、やはり多くの方の意見を伺える会は大切だと思います。
- ・週5日制を有効に活用する方法。融合を有効につかえる。
- ・会員の皆さんが、非常に生き生きしておられ、その元気の素がこの研究会なのだなあと感じました。
- ・これからの時代に向かって、とても大切なものの一つであると実感しました。ですので、この研究会がより継続され、多くの方々に知ってもらい関わってほしい会ではないかと思いました。
- ・まず、学社融合のことを少しずつ理解し、実践化に向けての一步を踏み出したいので、何についても吸収していきたいです。
- ・学校への支援システムに関心がある。
- ・すべてです。特に子どもへの影響について。
- ・地域からの発信を常に意識しているところ。
- ・会員になっておりますが、学校の先生方の話を聞く機会がありましてありがたいです。
- ・いろいろとおもしろい取り組みがあり、それがネットワーク化していくことでまた新たな展開になっていくこと、面白いと思います。
- ・今後も融合研で学びたいなあと思います。なんとか本校でも関連中学校区でも地域の方々が自然に集える場ができればいいし、本当の意味で学校主導から学校と地域が融合できる校区にしていけたらなああって、思っています。がんばるぞー。また来ます。たくさん全国に仲間がふえるのもうれしいですね。
- ・学社融合を初めて耳にした者として、その考え方や実践方法について学んでいきたいと思っています。
- ・これからの教育に於いて、とても大切な研究会だと思います。このようなフォーラムがあれば次回もぜひ参加したいと思いました。
- ・情報収集とみなさんから元気もらえること。
- ・いろいろな情報が得られることに関心を持って参加させていただきましたが、人とのつながりで得られるもっと奥深いコミュニケーションやエネルギーなメンタリティにもっと強い関心がわいてきました。
- ・もっと、広めましょう。
- ・いろいろな立場や職域等を越えてフリーに話し合えるところです。
- ・わたしの地域では「学校主導」でした。今一步の発想転換のときと思っています。
- ・地域の教育力の学校への導入について。
- ・全国各地の事例を知りたい。住民参画の様々な手法・発想を学びたい。
- ・施設を住民と共有し、協働化を推進すること。
- ・青少年の健全育成について
- ・まちづくりの手助けをやりたい。
- ・学と社との間隔をもっと縮めたい。

コメント: 融合研そのものの活動方向に関する事で、積極的な評価をいただいた。一方、参加者それぞれが課題を持っており、その解決のために融合研に期待していることがよく分かる。フォーラムや今後の会活動の方向性として、十分検討しなければならない。また会員の拡張は、情報の幅広さにもつながるので一層の広める努力をしていく必要がある。

5 その他(どんなことでも)

- ・学社融合ができるまでには、なかなか難しいことですが、少しずつ前へ進んでいかなければいけないなあと改めて思いました。
- ・高等学校に勤務するものとして、これからの学校の可能性について明るい見通しを持つことができました。
- ・学社融合に対して、本気で取り組んでいる本物の人たちが集まるこれだけのフォーラムは本当にすばらしいと思えました。素敵な出会いをありがとうございました。
- ・Yosakoi ソーランを踊れるなんて！予想もしていなかったので、大変うれしかったです。どんどんソーランにはまっていきそうです。本当にありがとうございました。
- ・フォーラムの運営、本当にすばしかったです。お疲れさまでした。
- ・参加できてよかったです。

- ・初参加でしたが、2日目のみでしたので残念でした。
- ・初めての参加、準備たいへんなのがよくわかりました。ありがとうございました。越田さんへ；金を出しての発表は、当然です。全国への発表の機会をいただきありがとうございました。
- ・初参加でしたが、スタッフの皆様や参加者の情熱・ファイトをいただくことができました。今後に生かしていきたいと思えます。
- ・私の住んでいる地域ではまだまだ学社融合の風は吹いていませんが、少しずつ広げていければいいなと思えます。このようなフォーラムを計画していただきありがとうございました。また会の紹介をお願いします。
- ・私たちの活動を認めていただきありがとうございました。ことしも元気をもらって帰ります。冬季フォーラムで、できる限りお手伝いしますので声をかけてください。
- ・入会します。今後ともよろしく。
- ・懇親会、いつもながら最高！今年も仲間が増えました。
- ・すてきな2日間をありがとうございました。
- ・我が方の教育委員会も遅きに失した感はあるのですが、ようやく「学社融合」について話し合う状況が生まれてきました。しかしながら指導部のガードは非常に堅く、話がなかなか進みません。ほとんどの地域で地域コミュニティが崩壊している東京に於いて、学校と地域の融合という視点はとても重要です。微力ではありますが、その重要性についてしっかり訴えていきたいと考えています。
- ・全国の展開が2日間で見られたことに感謝。しかし資料は前もって冊子にまとめ、発表は視覚をもっと駆使したほうがよい。資源を大切にしましょう。HPを持っている団体が多いのだから。
- ・一層努力する気持ちが強まりました。

コメント；今フォーラムを通じて、10名以上の新規会員が誕生した。本会の生の活動に接して、魅力を感じていただけた結果と思う。会員になって、地元で継続的な活動をする上でのヒントや助言を得たいという現れであり、仲間ができることがその支えになっているのではないだろうか。

「2001年度総会」より

が事務局提案 が、決定事項

1. 役員人事;

全員留任

会 長;宮崎稔[習志野市教育センター]

副会長;岸裕司[秋津コミュニティ顧問] 庄子平弥[シニアネット仙台]

監 事;野澤令照[仙台市教育委員会] 小山みさ[市川市ナーチャリングコミュニティ]

融合プログラム研究開発委員長;越田幸洋[鹿沼市立石川小学校]

事務局;宮崎雅子[事務局長] 矢吹正徳[日本教育新聞社] 種田祝次[秋津コミュニティ]

押田敏郎[市川市立新井小学校] その他;事業に応じて募集する

全員承認されました

2. 会計報告;

会報で報告済みでしたが、質問や意見はありませんでした。

承認されました。

3. 会費の値上げについて

年会費を3000円に値上げしたい

【提案理由】活動が活発化して内容が多くなっているため、会報の発行にかかわる経費がかさみ、年4回の発行では送料と用紙代でほぼ会費が一杯である。2000年度は単年度では赤字になり、繰越金でまかなっている。他の事業に当てる経費が出せない状況である。今後も活動が一層活発化することが予想されるので、来年度からは「年会費を3000円に値上げしたい」。

【質疑・意見】

メール会員が増えているので、会報はメールでもよいという人もいるのではないかと。

事務局答弁;一度はそうにしたが、新聞や雑誌への掲載記事などについては、コピーして印刷せざるを得ない。それで、全員に印刷し郵送することにした。今後もそうしたい。

融合研をNPOにする案が検討されているが、そうすると2000円会費では無理が出てくる。値上げに賛成である。

事務局案が承認されました。(2002年度からは、年3000円になります)

4. 会費未納者について

2年以上にわたって会費が未納の人がいる。融合研はどこからも補助を受けず、会費のみで運営されている。未納者に係る分は、会員が負担をすることになるので、どうしたらよいか。事務局としては、催促をしても連絡がない人もいる。2年以上の未納者には、「継続化、退会か」の意思を確認し、退会も認めて行くようにしたい。

【質疑・意見】

行政の人の中には、職務の必要上から会員になっていた人もいて、配置換えになったあとは退会したい人もいるのではないかと。そういう人こそ、別の部署から広めていただきたいが、無理に引き止めることはできないのではないかと。

2年以上にわたって未納の人には、一度、意思を確認し、それに従うようにする。

5. その他;事務局の移転と資料の保管について

事務局が移転することになった。それにもなって、資料が散逸したり会員の要望に応えられなくなったりすることも考えられる。資料は、岸副会長のところで整理できているので、岸副会長に問い合わせただけのようにお願いしたい。TEL 03-5689-5711「パンゲア」内

事務局新住所 〒273-0122 千葉県鎌ヶ谷市東初富3-23-6

TEL・FAX 047-445-3669

メールのアドレスは変更ありません。

鹿沼フォーラム反省会 が事務局提案 が、決定事項 2001・7・31 於・パンゲア

参加者；宮崎稔，岸裕司，小山みさ，越田幸洋，宮崎雅子，矢吹正徳，種田祝次，車育子，稲垣陽一郎，
一色真司，田中宏美，渡邊喜久(富士宮市教育委員会)

1. 鹿沼フォーラムの記録の整理
各分科会の確認・アンケート集計より
今後は、記録者にメールかフロッピーでも提出していただけるようにする。
発表者・屋台提案者も同様。(会報でも、報告できる；将来的には、研究紀要として発行できるようにしたい。
2. フォーラム提言者への謝礼について
会員・非会員とをどう線引きするか。交通費・参加費
提言者・発表者は会員のみを原則とする。自分の実践を発表したい人が勉強のために発表するのであるから会員には、支払いをしない。また会員外の方は、原則として依頼をしない。
参加者が手弁当で参加し、お客様ではなく共に盛り上げていく主体的な一人である。
したがって、『単なる名義後援』は、お願いしない。
3. 役員補助についての礼をどうするか
弁当のみでいいのか。
運営費用の中から支給する。
学生の会費は、割引をする。またできるだけ、役員のような形で手伝いもしてもらおうと、仲間に入りやすくなるので願います。
4. 富士宮フォーラム 案 について
9月8日(土)に、現地で準備会ができるか。参加可能者は？
日程と内容の検討；会員発表の募集
現地での準備会には、宮崎稔・岸裕司・宮崎雅子が参加。
テーマの決定を急ぐ。
開催地での基調提案をしてもらう。開催地での実践の実態、課題やなぜ、この地で開催することを希望したか、というようなことを含めて。このことは、今後の開催地でも同様とする。
5. 福岡フォーラムについて
日時は？ 土・日がよいか。金・土がよいか。夏休みがよいか。
6. フォーラムの今後(配慮点)
司会者と提言者の打ち合わせを持つ
全体会の場で、屋台発表者には内容について簡単に発言してもらおう。資料は、屋台で配布するのでどうか。
資料は全て、上段右上に「 日目」「 分科会」と明記する。
資料は、期日までに届くよう期限を守ること。届かないときは、袋詰めしない。
資料印刷は、提言者各自で行うこと。また、基本提案は、締め切りを早めて、冊子として配布できるようにする。そうすることで、他の提案と区別できる 見つけやすい。
司会者は、終了時間を守ること。
7. ホームページを「原省司会員」に願います件
内容、アドレス、更新についてについて、お願いして今後つめていく。
8. 融合プログラム研究開発委員会について
これまで実質的な活動ができていざしましたが、今回の鹿沼フォーラムで、多数の実践が発表されました。そこで、これを機に本格的に研究開発にとりこんでいきたい。とくに活発な実践と討議があった「音楽教育の融合には、林さん」「図書館教育の融合には藤尾智子さん」をチーフにして、まず取り掛かりたい。詳細については、越田委員長を中心に進めることで了承されました。
9. NPO化について
引き続き検討する。

『冬季フォーラム2002in富士宮』について

- 1 日 時 2002年2月2日(土)～3日(日)
- 2 場 所 静岡県富士宮市・朝霧高原青年の家
- 3 内 容 「富士山学習」としてその名が知られている富士宮市の「総合的な学習」、また全国的な規模の大会を開催する「読み聞かせ学習」についての実践発表
会員発表、分科会討議、交流会、屋台発表等。

富士山の麓のさわやかな高原で、雪の富士を見ながら交流しましょう。ぜひ、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

『余裕教室の活用に係る補助事業等について』の送付

このたび岸副会長の尽力で、文部科学省施設助成課長「久保公人」さん・同係長「牧野映也」さんより、標記の資料が送られてきました。それぞれの団体で、補助申請を検討する際の手がかりになると思いますので参考にしてください。

『会員名簿の送付』について

2001年度版「会員名簿」を同封しました。

- ・訂正のある方
- ・メールアドレスを新たにされた方

は、事務局まで御連絡ください。

その他いろいろ

福岡フォーラムの日程検討

「融合フォーラム2002in福岡」は、初めて本数を離れて来年の夏に行われます。九州地区は、学社融合が盛んであり、早くから「九州でフォーラムを！」という超えがありましたが、いよいよ実現します。現在、日程を検討しています。「博多山笠」が行われる7月中旬にという声もありましたが、参加者が少なくなることも予想されるので、夏休みになってから、8月上旬の土・日の線で検討しています。多くの方が参加出来るよう、いまから日程の調整をお願いします。

会費納入のお願い

2001年度の会費の納入が済んでいない方には、この会報で個人的に連絡をいたしました。よろしく申し上げます。なお、会費の納入がし易いように、振込み用紙の扱いについて郵便局と調整中です。もうしばらく現在の方法で行いますので、ご不便をおかけしますがよろしくおねがいします。

メーリングリスト(ML)の使用について――再掲

会員が300名近くになり、メールをお持ちの会員も全会員の7割近くになりました。そうしてメールでの情報交換が頻繁に行われるようになりました。文明の利器のすごさを改めて思い知らされています。一方、会としてのルールづくりができていない段階ですので、いくつかの問題点(苦情)も寄せられています。一応、個人的な情報

連絡には、使用しないようにお願いします。

一方、ローカルな内容であっても、それぞれの地域の融合の動きがわかるようなものは差し支えありません。

MLは、いつでも脱退が可能です。仕事用と同じアドレスを使用している人も多いかと思います。余りに多い融合情報ですので、脱退を希望する場合は、いつでも「管理者」か「事務局」へご連絡ください。また、『アドレスの変更』や『新規にメールを使うことになった方』は、事務局まで『メールで』連絡をお願いします。

雑誌掲載の記事から

大阪教育大学附属池田小学校の事件については、融合研の会員が「学校開放ト危機管理」の立場からいろいろな雑誌や新聞にコメントやらインタビュー記事として掲載されました。

そのなかから、草土文化の『子どものしあわせ』に掲載された宮崎会長の文を紹介します。鹿沼フォーラムでの挨拶と類似していますので、合わせてご覧ください。

上越フォーラムの冊子の配布について

2月に行われた「冬季フォーラム2001in上越」では、開催までに上越の関係者がメールを使って、いろいろなやりとりをしながら開催にこぎつけました。フォーラムの準備に係るものはもちろん、準備の過程で疑問になってきた「融合とは」「なぜ、学校を開くのか」「地域の人への配慮事項は」等々、非常に大切な原点が忌憚なく話し合われました。その模様を、冊子にしてくれました。欲しい方は、100円程度のカンパをいただいております。会員には、送料込みで『370円』でお分けしますので、御連絡ください。

事務局の移転について

事務局が、移転しました。下記のところですので、よろしくお願いします。なお、この会報をお送りした封筒の表には記載されていますので、お間違えのないようにお願いします。

(住所) 273 - 0122 千葉県鎌ヶ谷市東初富3 - 23 - 6

(TEL・FAX) 047 - 445 - 3669